

①耳石標識 標識の持続性と大量標識技術の開発

標識の持続性

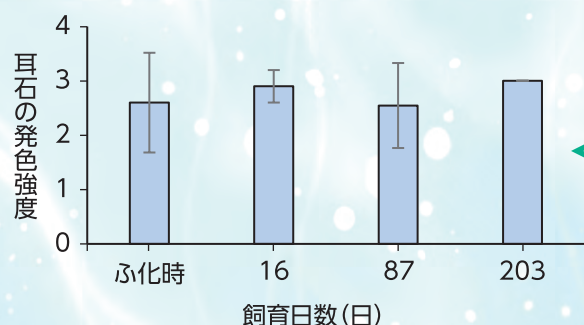
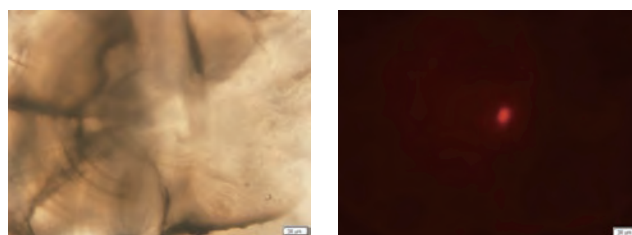


図3 発色強度の変化



203日齢のワカサギの耳石

- 標識魚の飼育試験では、標識直後に十分な発色が確認できれば、203日齢のワカサギ耳石も**研磨なし**で標識を確認することができました(図3)。

自作染色容器で大量染色



写真7 染色中のワカサギ卵

- 透明の塩ビ管を使用した容器に卵(150万粒)とコチニール溶液6Lを入れて染色している様子(写真7)。エアーレーションは、**卵が沈殿しない程度**の強さに調整します。
- 染色中の水温変動を抑えるため、保温シートで容器を包み、気温が高い場合には凍らせたペットボトルを投入して**水温を13℃程度**に調整します。

※大量標識については、標識の発色にバラつきがある等の課題も残されています。

①耳石標識 ワカサギの長期飼育技術の開発

最長584日の飼育が可能に!

- ワカサギの長期飼育は、耳石標識の持続性の確認や給餌放流試験に必要です。飼育のポイントを以下にまとめました。



写真8 飼育池のワカサギの様子

- ふ化したワカサギがすぐにエサを食べられるよう、ふ化2～3週間前に施肥をして水作りをします。施肥には**微生物繁殖促進飼料**を用いることで池底や水を汚さずに追肥も可能となります。



写真9 屋外での粗放的飼育

- 水温が低くプランクトンが増えない場合は、**濃縮淡水クロレラ**をうっすら色が付く程度、池に散布します(写真8)。
- ふ化後1週間程度から**アユ用配合飼料**(餌付け用)を与えます。その後、配合飼料はワカサギの成長に応じて大きくします。

- 藻の繁茂や水温上昇の抑制のために**寒冷紗**を、鳥害の防除のために防鳥ネットを池上面に設置します(写真9)。